第三種郵便物認可　Bulletin 2010年8月15日発行

交流委員会

2009年度交流大会の報告

交流大会・セミナー実行委員長
長尾　俊夫

■2009年度の交流委員会の活動を締め括る交流大会は5月25日、新旧委員合同で開催された。上浪新支部長も冒頭からの参加で、新しい風を感じる開会のご挨拶をいただいた。鈴木交流委員長からは、昨年度の活動の概要総括があり、2009年度も十分な成果を上げられたと報告された。特に支部建築相談委員会との共催で正会員を対象とする技術材料の研修会を5回開催し、情報交換の場として意義ある会であったとし、これを次年度、どのように継承していくかが課題として上げられた。各グループ活動は、グループの枠を超えた活動展開が新たな潮流となっていることへの評価にも言及された。

続いて、今回の特別企画であった上浪新支部長の所信表明があった。先ず、来年に迫るUIA東京大会への思いを語る一方、寄付金依頼方式も含め成功に向けた課題への取組みの覚悟が示された。新法人形態移行については、建築の価値向上に寄与する団体であり、かつ賛助会員にも相応しい選択を考えていくこと。また、「第2の会員」である賛助会員ともより緊密なパートナーシップを組みながら、市民の共感を得られるJIAブランドの確立を目指していく強い意志を表明された。若手建築家にも魅力ある団体を目指し、芦原新会長の掲げる「次世代社会システム」の建築家の存立を支部としても協力していくと。

新居千秋氏セミナー

「ものづくり」のパートナーである賛助会員は、一緒に活動していく仲間と位置づける認識を前面に表す所信であった。

これを受け、賛助会員の黒田氏より代表質問があり、西勝新副支部長も加わって次のような説明があった。支部執行部も若返り、各種交流イベントに参加して、人と人との関係を大切にしたい。また、「賛助会員」名称再考については、支部常任幹事と交流委員各グループ代表を交えて特別委員会を設けて議論するアイデアが出ていると西勝氏から報告された。氏はまた、広報のあり方に触れ、本部の広報においても賛助会員の顔がみえるように改革する考えがあることを示された。地域会と賛助会員との関係にも議論は及び、遠藤正会員から杉並の事例が紹介された。氏の設計活動を通してメーカーと技術を介しての人的交流がいかに大切かを力説された。熱気ある意見の交換があった。最後に鬼島賛助会員より、企業人としての参加が終わっても、その後個人の立場で参加できる制度を検討して欲しいという話も出て、改革と継続と両面の力を相互に活かす課題を考える充実した交流大会であった。

第二部の交流セミナーは、「この先の建築の課題」と題して、2009年度建築大賞を受賞された新居千秋氏のデザイン話。これまでの数々の作品を苦労話を交えながら流れるように解説された。特に地域文化施設－黒部市文化センター、横浜赤レンガ倉庫など、氏特有のプロセス話に興味をひかれた。大賞受賞作の大船渡市民文化会館では、「不均質な条件を受け入れ不均質な空間をつくる最初の実験であった」と語り、住民参加型の設計スタイルが、住民主体の運営につながり活気ある利用を生んでいる。小学校の教科書にも取上げられたことを大きな喜びであったと語った。新プロジェクトは「キャベツ」と称する、ねじれ広がる3次元の不思議なダイナミズムに満ち、目まいも覚えながら、不況の現実感が開放されていくような元気の湧く締めくくりであった。

この後の懇親会には支部長、新居氏参加の他、芦原新会長、小倉JOB会長のご挨拶もいただいた。元賛助の安井氏、弟子の土屋氏にそば打ちの労を願い、その味を手に手に話の輪が広がった。立石氏の恒例の声色で長い大会の一日が締め括られた。凝縮された意義のある交歓であった。

〈(株)剣持デザイン研究所〉

懇親会

新支部長所信表明
（撮影：立石博巳）

FORUM